

1. 授業のねらい・概要

近年、日本語をクイズ形式で問うテレビ番組が多く見られ、ゲームなどでも母語である日本語が注目されている。これは日常的に日本語へ目を向ける機会としては歓迎できるブームであろう。しかし、クイズやゲームに挙げられる「ことわざ」や「漢字」といった語彙だけでは、コミュニケーションを成り立たせるのは難しい。情報化社会である現代においては、正確かつ確に用件を文章化する能力が必要不可欠である。この授業では、論理的に物事をとらえ、明確に表現するための基礎をベースに、「読み手」「書き手」の言語表現を考えていきたい。さらに、取り上げた文章を通して、基礎的な日本語表現を確認しつつ、その背後にある構造やテーマを論理的な思考を用いて、自らの文章により表現できるようにする。

2. 授業の進め方

「読む」「書く」ことを主体とし、様々な文章（小説・詩・エッセイ・研究論文・新聞等）を通して、問題点を指摘する方法で授業を進めていく。また、文章だけではなく、媒体の違った表現を文章化してみるなど、それを他者へ正確に伝える能力を身に付けたい。さらに、基礎的な文章表現のルールを確認し、レポートや小論文等、目的に合わせたコミュニケーションの形式を実践すべく、プリントを用いて学習する。なお、漢字検定、日本語文章能力検定（2級・準2級）等の小テストを毎時（10分程度）行う。

3. 授業計画

1. 【概論①】「言語」とは何か？ 「悪文」とは何か？	9. 【構文④】配慮表現・やさしい表現
2. 【概論②】ことばで表現すること	10. 【レポートのルール①】メモの取り方・引用
3. 【構文①】直接話法と間接話法	11. 【レポートのルール②】書き方の基本
4. 【構文②】話し言葉と書き言葉オノマトペの効果	12. 【読解と要約①】要約のポイント・練習問題
5. 【構文③】オノマトペの効果・修辞法（比喻）	13. 【読解と要約②】要約文実践・社説
6. 【図化⇄文章化①】（表示と表現）（説明と描写）	14. 【小論文①】書き方の基本・テーマと展開
7. 【図化⇄文章化②】（事実と意見）	15. 【小論文②】講評
8. 【図化⇄文章化③】表・図・グラフの作成	

4. 到達目標

- ・基礎的な文章表現のルールをしっかりと確認し、他者へ正確に伝える能力を身に付ける。
- ・様々な言語表現を通して、背後にあるテーマや構造を理解し、それを文章で表現できるようになることを目指す。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

毎時、10分程度の小テストを行うので、事前に配布するプリントの範囲を予習すること。

6. 成績評価の方法・基準

定期試験（50%）、提出物（30%）、毎時の小テスト（10%）、授業での発言及び取り組み姿勢等（10%）

7. テキスト・参考文献

毎時プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。

8. 受講上の留意事項

文章を「入力」「打つ」ことが定着し、日常的に文字を「書く」機会が少なくなっていることから、この授業ではPCは用いず、「書く」こと（手書き）中心に進めていく。よって、PC等は開かず、またすぐに検索ソフトに頼るのではなく、自己の思考を大切にすること。